

AC100 V駆動で20,000 lmの高輝度を実現し、 浮世絵の魅力を明るく色鮮やかに表現。



株式会社一旗様

空間体感! 動き出す浮世絵展 NAGOYA

導入時期：2023年7月
導入地域：中部

課題

浮世絵という日本が世界に誇る美を伝えるために、電気容量の制約がある会場でも映える明るさの映像を表示したい

解決策

AC100 V入力で高輝度20,000 lmを投写可能なMZ20Kシリーズを採用することで、電気容量の制約がある会場で消費電力を抑えながら高輝度投写を実現

電気容量に制限のある環境
でイマーシブミュージアムを実現できる唯一無二のプロジェクターだと感じました。

株式会社一旗
代表取締役
東山 武明 様

※所属は納入時のものです。

背景

浮世絵の世界に没入体験できるデジタルミュージアム

2023年7月、株式会社一旗様がプロデュースする「空間体感!動き出す浮世絵展 NAGOYA」がスタートしました。本展覧会は葛飾北斎や歌川国芳、歌川広重をはじめ世界的な浮世絵師の作品300点以上をもとに制作された“動く浮世絵”をプロジェクションマッピングで表現。世界でも類を見ない大人から子どもまで楽しめるイマーシブミュージアムです。会場内はテーマ別につくられた9つの立体映像空間と浮世絵の展示解説で構成され、浮世絵の持つ鮮やかな色彩や繊細な筆のタッチなどを余すことなく伝えるため、液晶レーザープロジェクターPT-MZ20K、およびPT-MZ16Kが合計22台採用されました。

導入した理由

AC100 V入力で低消費電力ながら20,000 lmの明るさを実現

浮世絵を表現する上で最も重要視していたのは映像の明るさだったと株式会社一旗の代表取締役 東山様は語ります。「以前からパナソニック製プロジェクターを数々のプロジェクションマッピングで使用しており、信頼性の高さや運用のしやすさにおいて優れていると感じていました。今回の会場は美術品の展示を前提として設計された施設であるため使用可能な電気容量に制約があり、200 Vの電源工事も困難な環境でした。通常200 Vを必要とする20,000 lmの輝度が、PT-MZ20Kは100 Vで実現できると聞き、思い通りの明るさを出せる他にはない機材だと思い採用を決めました」

株式会社一旗様が仕掛ける渾身の浮世絵展

2019年の設立以来、日本の文化伝統や地域の文化観光資源を活用したプロジェクションマッピングを手掛けてきた株式会社一旗様。今回はテレビ愛知様の開局40周年記念特別事業として「空間体感!動き出す浮世絵展 NAGOYA」をテレビ愛知様と共同で企画し、浮世絵をテーマにしたかつてない没入体験型デジタルミュージアムとして各方面から話題を呼んでいます。

- 会場：愛知県名古屋市中区金山町1-1-1
金山南ビル美術館棟 (旧名古屋ガストン美術館)
- 会期：2023年7月8日(土)～8月28日(月)
- 主催：空間体感!動き出す浮世絵展 NAGOYA 実行委員会(テレビ愛知、一旗、時事通信社)
- URL：<https://www.ukiyoemotion.com/>



▲ 会場エントランスではパナソニック製の「スペースプレーヤー」でイベントタイトルを表示

プロジェクションマッピング



▲ 葛飾北斎の「富嶽三十六景」をはじめ旅情あふれる風景画の世界に没入する空間“眺”。門への投写と壁面への投写にPT-MZ20Kを1台ずつ使用し情景を明るく鮮やかに再現した



▲ 花鳥画の世界を堪能する空間“彩”。20,000 lmモデルならではの明るさにより1台で繊細な色彩表現を実現。座席の前に設置された鏡面の反射により没入感を高めている



▲ 鮮やかな桜や美人画の世界を巡る空間“麗”はPT-MZ20Kで色とりどりの色彩を描写



▲ 空間“麗”は天吊りで床面にも投写し、歩く足元にも散る桜が動き出す仕掛けに



▲ 武者絵などをダイナミックに魅せる空間“豪”はPT-MZ20Kで燃えるような赤色を表現



▲ 最後の空間“雅”(メインビジュアルの写真)は7台のPT-MZ20Kで壁面と立体の山に投写



▲ ジャパン・ブルーと呼ばれる藍色がテーマの空間“藍”では、壁面と中央の立体オブジェに投写



▲ “藍”の空間に設置されたPT-MZ20K。浮世絵ならではのジャパン・ブルーを再現した



▲ 名瀑をテーマにした空間“瀧”ではPT-MZ16Kを使用。布を通して投写し、流れる水を表現した



▲ 手をかざすと擬人画やだまし絵が動き出すインタラクティブな空間“遊”ではPT-MZ16Kを使用

お客様の声

今後も様々なイベントで活用していきます

本展覧会はお客様の滞在時間が非常に長く、SNSでも多くの写真や動画をアップしていただいていることから、浮世絵をテーマとするイマーシブミュージアムとして満足いただけているという手ごたえを感じています。特に「子どもがとても喜んでた。子ども連れにお勧めしたい」というコメントを見た時はとても嬉しかったですね。

今回導入したプロジェクターは、当社が多く手掛ける文化財や城郭など様々なプロジェクションマッピングに今後も活用してまいります。100V入力で20,000lmの明るさが出せるこの製品は、会場の都合で設置環境に制限のあるイベントでの活用にも適しています。これからも様々な演出に活用し、多くの方に新しいアート体験をお届けしていきたいと思っております。



株式会社一旗
代表取締役
東山 武明 様

※所属は納入時のものです。

導入後の効果

求めていた「光の総和」を実現する高輝度投写

東山様は、没入感を実現した理由の1つに輝度の高さがあげられると語ります。「イマーシブミュージアムをつくる上で『光の総和』が非常に重要と考えており、9つの空間全てにおいて、巡った時に受け取る光の面積や量を最大限にすることを意識して構築しました。そのために20,000lmの投写は必須でしたが、従来の20,000lmモデルはAC200V入力が必要で、さらに筐体も大きいために会場の都合上ここまでの演出は不可能だったと思います。100Vで20,000lmの明るさを出すことができ、さらに低消費電力でコンパクトなPT-MZ20Kのおかげで、理想通りの台数を使って求めていた光の総和を実現することができました」

明るさと色再現性の両立で浮世絵の魅力を最大限に表現

また、プロジェクターの色再現性の高さも展示に大きく貢献したと東山様は語ります。「世界の名だたる芸術家から評価された藍色や、色とりどりの花の色、美人画の着物の色など、浮世絵には多くの色が使われています。ただ、オリジナルの浮世絵は江戸時代に刷られてからかなりの年数が経つため色褪せており、本来はもっと鮮やかで強い発色を持った作品だったはずなのです。今回は、デジタルミュージアムの強みを活かし、当時の色を再現しようと色調整にかなりこだわりました。明るさと色再現性を両立したプロジェクターだからこそ、当時の浮世絵の魅力を存分に表現することができたのだと感じています」

納入機器

- 液晶レーザープロジェクター PT-MZ20K ×14台
- 液晶レーザープロジェクター PT-MZ16K ×8台

